

岡病防第1号
令和8年4月6日

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について
病害虫発生予報第1号を下記のとおり発表したので送付します。

令和8年度病害虫発生予報第1号

令和8年4月6日
岡山県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	作物名	病害虫名	発生時期	発生量
麦類	赤かび病	早	やや多	タマネギ	べと病	—	やや少
モモ	灰星病 ウメシロカイガラムシ	やや早 やや早	やや多 —	イチゴ	ハダニ類	—	やや多
イチゴ ナス	灰色かび病	—	やや多				

1 普通作物

(麦類)

(1) 赤かび病

予報内容

発生時期 **早**

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 麦の生育は、平年より早く推移している。

イ. 4月2日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、発病を助長する条件である。

防除上の参考事項

- ア. 本病の第一次伝染源である子とう殻の形成が盛んになるのは、日平均気温が 13℃ 以上で降雨の直後である。子とう胞子の飛散が盛んになるのは、日最高気温が 15℃ 以上でかつ、日最低気温 10℃ 以上、湿度 80% 以上または降雨直後である。この条件からみると岡山市のアメダス気象観測値では、子とう殻形成好適日および子とう胞子飛散好適日は 3 月下旬から見られた。
- イ. 赤かび病は出穂期以降の気温が高く、湿度が高いまたは降水量が多いと発病が助長される。
- ウ. 気温が高く推移した場合には、出穂期が前進化するため防除時期を逸しないよう注意する。
- エ. 国内産麦類の検査規格では、赤かび病による被害粒が 10,000 粒中 5 粒以上混入すると「規格外」となる。
- オ. 令和 7 年度植物防疫情報第 7 号（令和 8 年 3 月 17 日発表）「麦類赤かび病の防除を徹底しましょう！」参照。

2 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病（花腐れ、芽枯れ、枝病斑）

予報内容

発生時期 **やや早**

発生量 **やや多**

予報の根拠

- ア. モモの開花時期は、平年よりやや早いと予測される。
- イ. 4 月 2 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、発病を助長する条件となる。

(2) ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生時期 **やや早**

予報の根拠

- ア. 3 月 6 半旬までの農業研究所内の気温を用いた予測式によると、幼虫ふ化最盛日（防除適期）は 4 月 6 半旬で平年（5 月 1 半旬）よりやや早いと予測される。

3 野 菜

(1) イチゴ、ナスの灰色かび病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

- ア. 4 月 1 日の巡回調査によると、ナスの調査ほ場において発生を認めず、イチゴの発生ほ場率は 20.0% であった。発生ほ場率は、いずれも平年（ナス：4.0%、イチゴ：

21.8%) 並であった。

イ. 4月2日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、発病を助長する条件である。

(2) タマネギベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月1日の巡回調査によると、いずれのほ場とも発生は認められず、発生ほ場率は平年(48.3%)より低かった。

イ. 4月2日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、発病を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 気温15℃前後で雨が多いと多発生しやすい。

(3) イチゴのハダニ類

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 4月1日の巡回調査によると、発生ほ場率は70.0%で平年(33.6%)より高かった。

イ. 4月2日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、発生をやや助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、

<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

